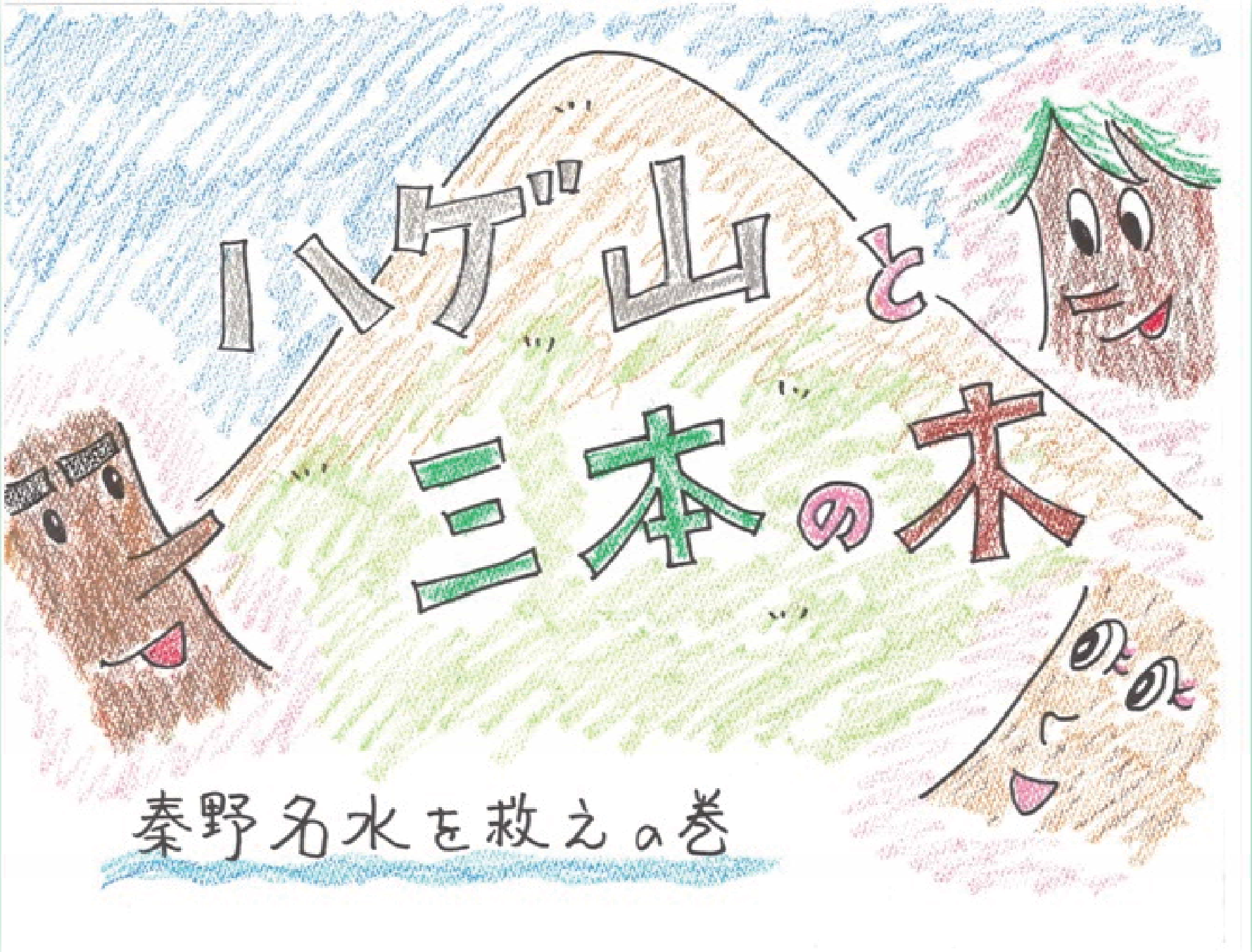
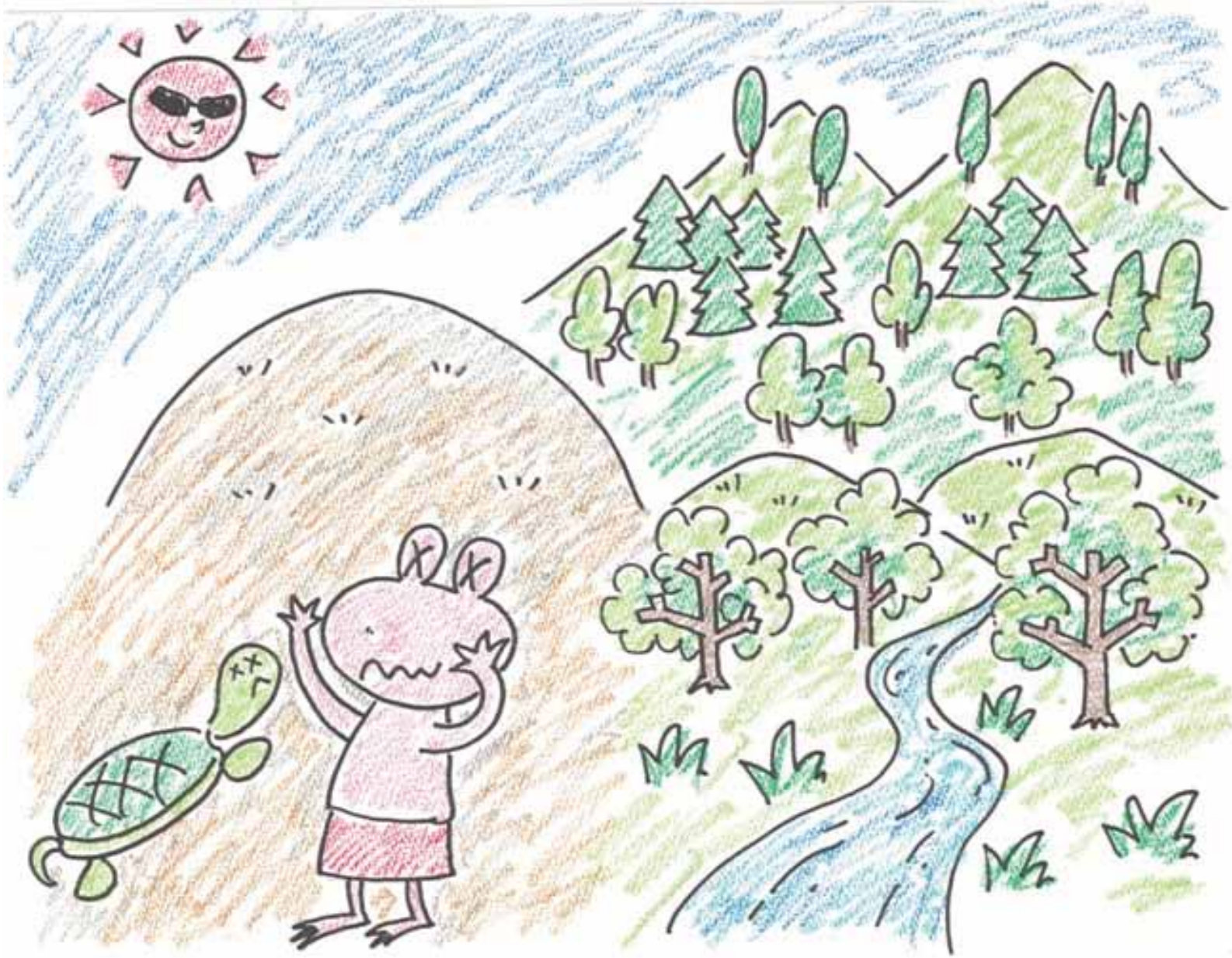

ハゲ山と
三本の木
秦野名水を救えの巻

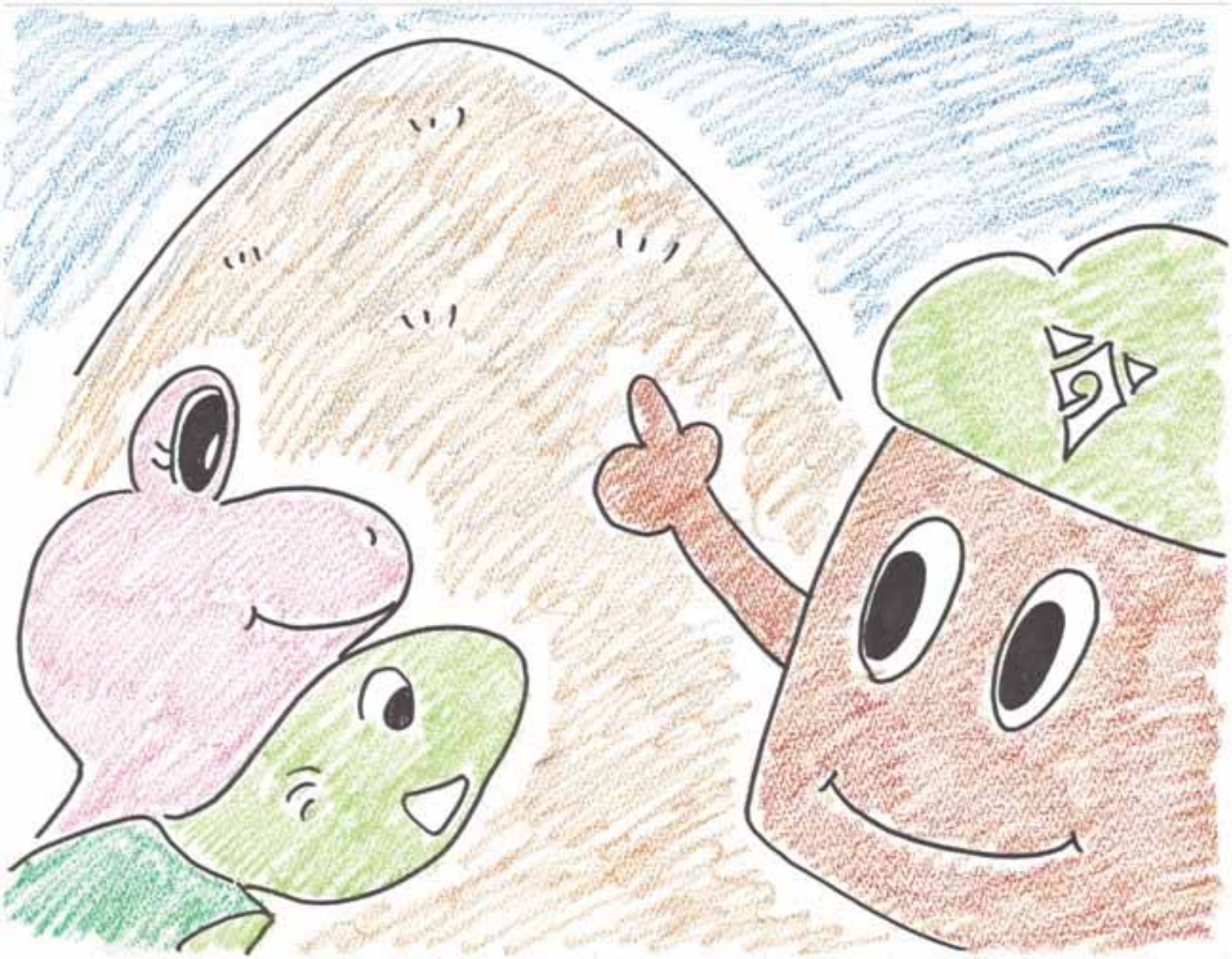
ここは、秦野のとある山のふもとの水辺です。あれれ、ぴょんこちゃんとカメ吉くんが困っていますね。



「カメ吉くん、私たちのところだけ、どうして水がないのかしら?」

「ほんとおかしいね。お隣の川は、たくさん水が流れているのに。」

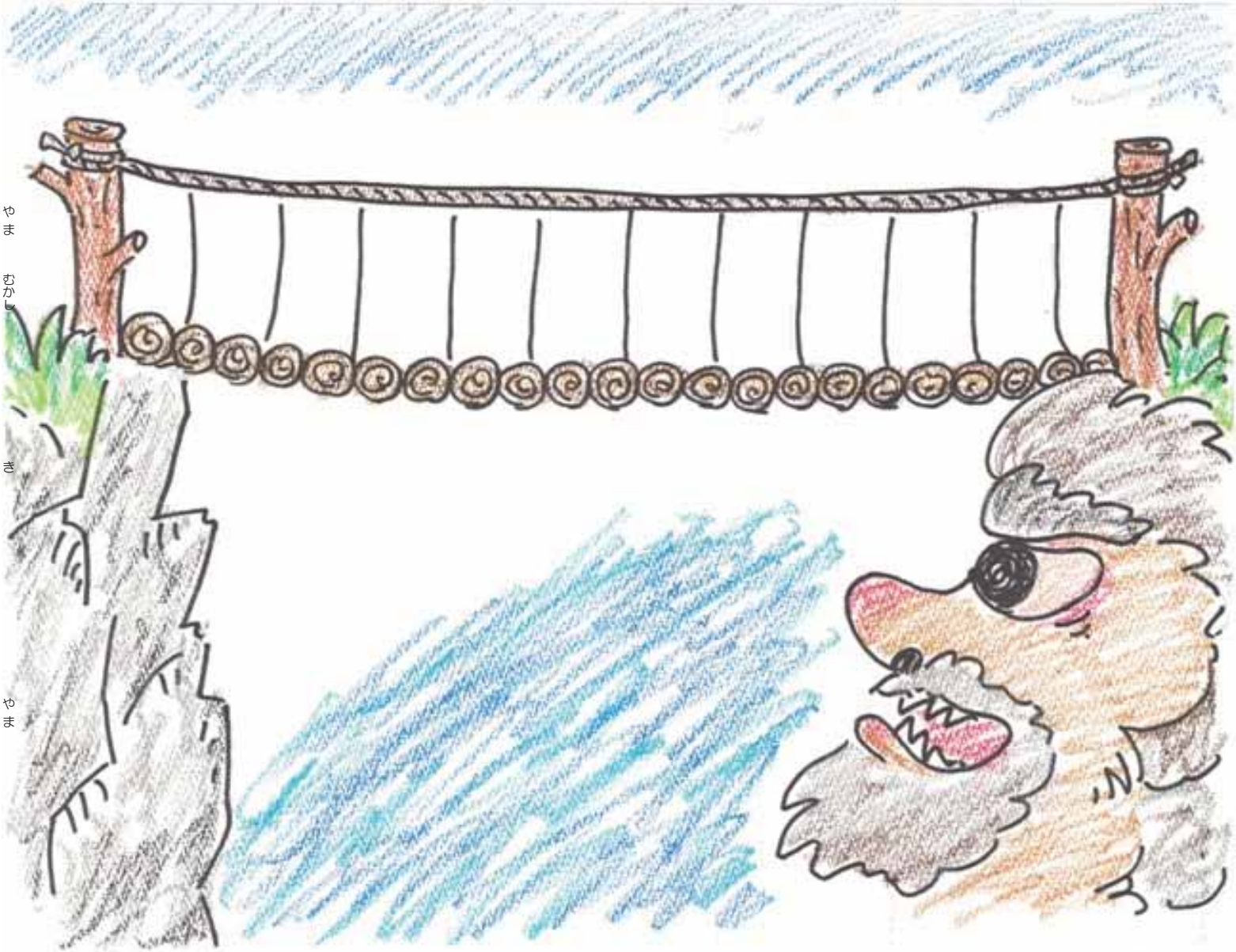
「ぴょんこちゃん、カメ吉くん。」「もりりん、教えてよ。」



「昔は、あの山も隣の山のように木がたくさん生えていたんだけど、あるとき、山に住む妖怪トロルがやってきて、手当たりしだいに木を食べてしまったんだ。それで、今ではあのようなハゲ山になって、川の水の元となる雨水が浸みこまなくなってしまったのさ。」

「恐ろしいトロルは、あのハゲ山の谷にかかっている吊り橋の下に住んでいて、そこを通ろうとする者を食べているらしい。」

「もりりん、どうかお願い。私たちの秦野名水を取り戻して！」



「そうだ、あの山を昔のような木でいっぱいの山にしてよ。」

「わかったよ、みんなのために、知恵と勇気を持って、ハゲ山を元どおりの緑豊かな山にしてくるよ。」

「誰だ、わしの橋を渡るのは。」

「わたしは、こならったん。夏にはカブトムシやクワガタが樹液を吸いにやってくる、秋にはドングリもなるのよ。」

「おおっ、うまそうなやつだな。」

「ちょっと待って、わたしより、おいしそうな木が次に来ますよ。一年中緑で、もっと大きな木ですよ。」

「うーむ、ならばよい。お前は行ってもいいぞ。」

「誰だ、わしの橋を渡るのは。」

「おいらは、ひのきん。人に植えてもらって大きく育ち、お家の柱になるよ。」

「こいつはなかなか食べごたえがあって、うまそうだな。」

「そんなことありませんよ。おいらは、クシャミや鼻水のもとの花粉をまき散らしているんですよ。とても粉っぽくておいしくありませんよ。それより、このあと、一年中緑で、ドングリもなる木が来ますよ。」

「うーむ、ならばよい。お前も行っていいぞ。」

「誰だ、わしの橋を渡るのは。」

「ぼくは、あらかしん。地面に深く根を張って、空から降ってきた雨水を、地中にたくさん浸みこませるよ。」

「そりゃみずみずしくて、うまそうだな。」

「なにをおっしゃいます、みずみずしいのは地面の中で、ぼくの体は、とてもかたくて食べられませんよ。かわりに、ぼくよりも、もっと太くて、みずみずしくて、やわらかくて、とてもおいしそうな木が来ますよ。」

「それは楽しみだな。お前も行っていいぞ。」

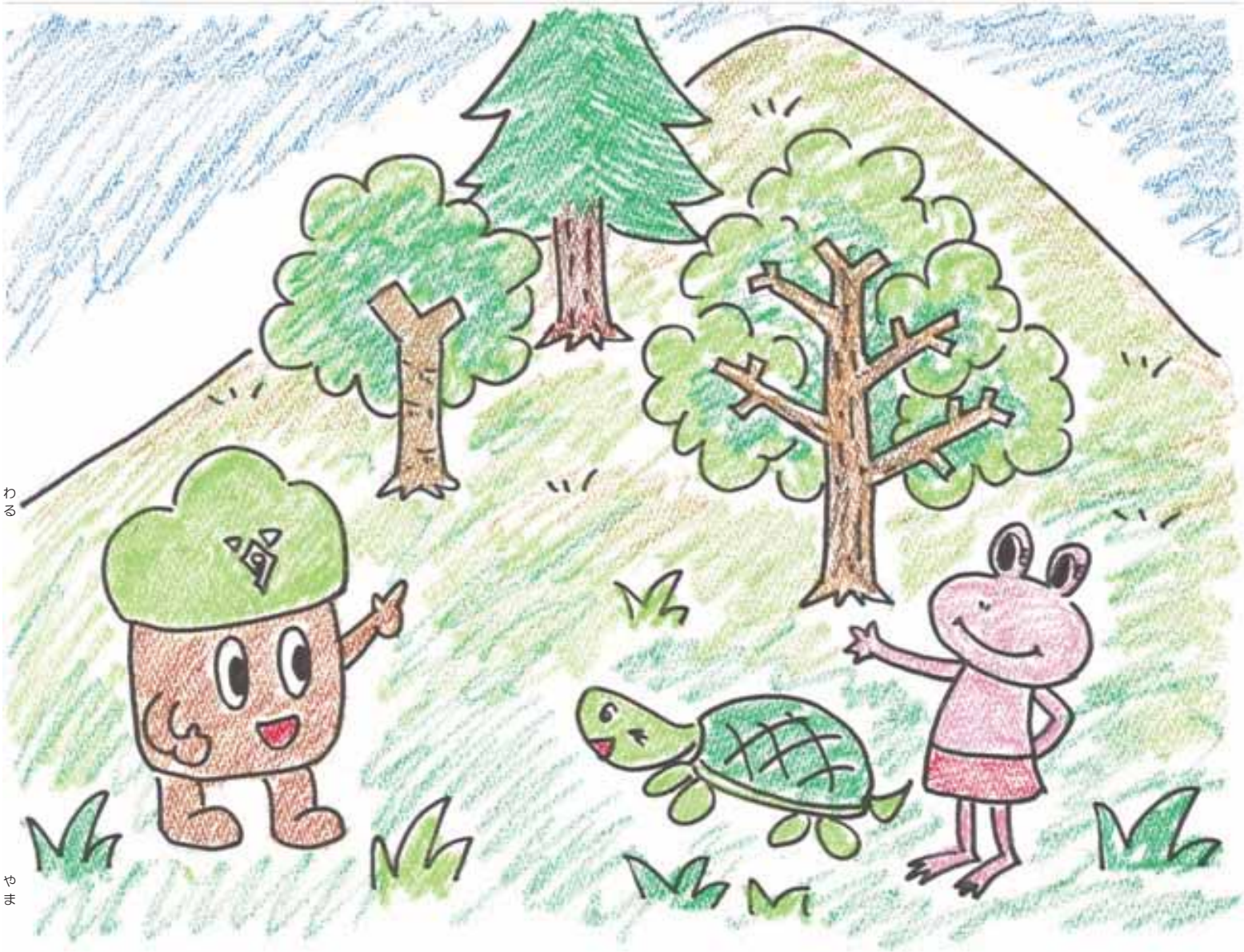
「誰だ、わしの橋を渡るのは。」
「ぼくは、もりりん。森を守る妖精さ。」

「待ってたぞ、こっちは腹ペコで死にそうだ。食ってやる。」
「やれるもんならやってみな。ぼくは、山の木を食い荒らすお前を退治しに来たんだ。」

もうんパンチ
ぶたたおれ

「もりりんありがとう。」「大活躍だったね。」

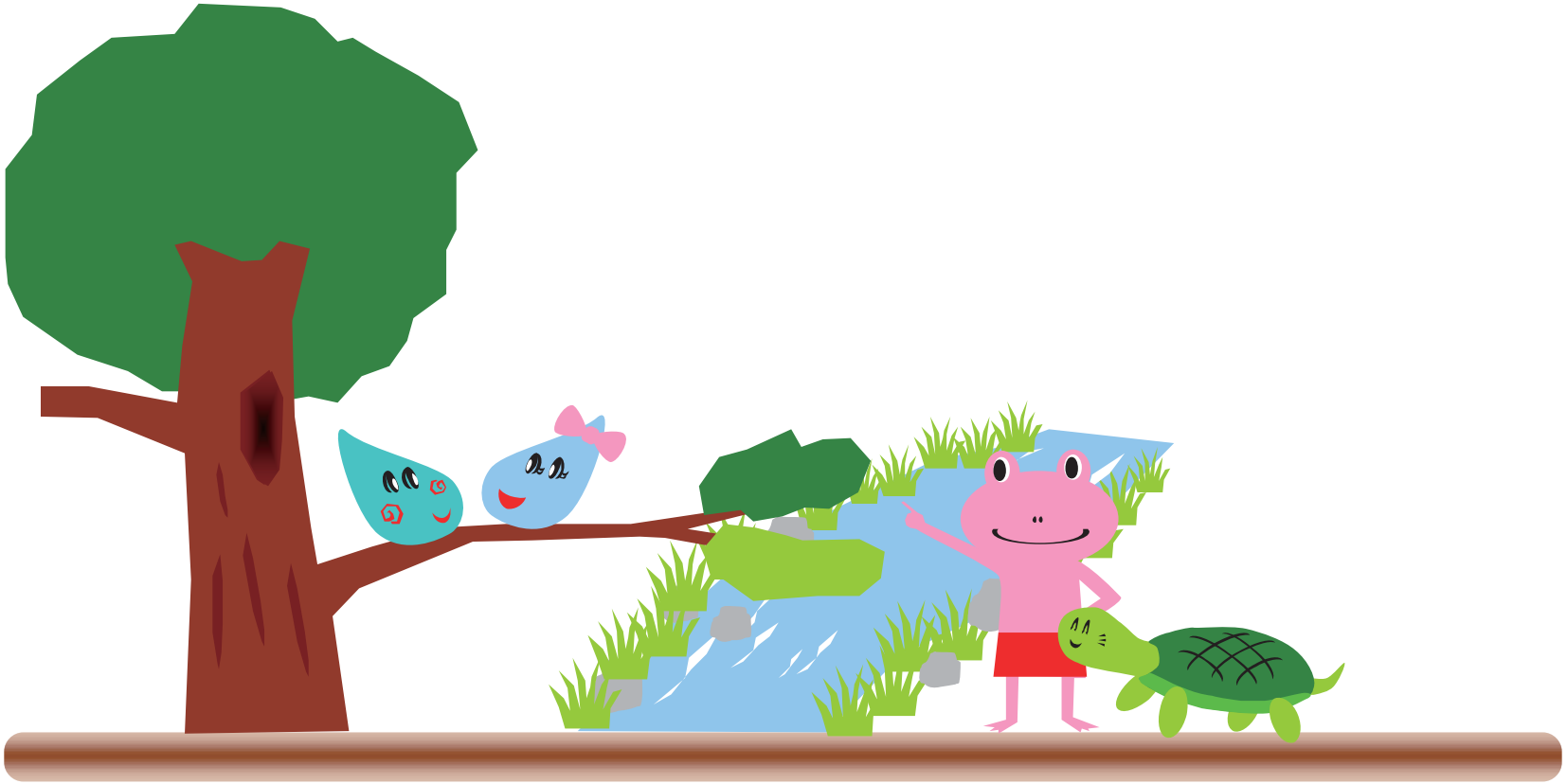
「あのハゲ山も元のたくさんの木々に覆われた山に戻れるよ。」



こうして、もりりんのおかげで、悪いトロルによってハゲ山にされた山に、こならったん、ひのきん、あらかしんの仲間が増えました。

しばらくすると、ぴょんこちゃん、カメ吉くんの住む水辺にも川が流れ、秦野名水が戻ってきたとさ。めでたしめでたし。

おしまい



ハゲ山と三本の木～秦野名水を救えの巻　平成２６年（２０１４年）６月

秦野市　環境産業部　環境保全課　http://www.city.hadano.kanagawa.jp/